

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	メディア分析論特論第一		
英文授業科目名	Topics on Media Contents Analysis 1		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-人間コミュニケーション学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学専攻		
担当教官名	兼子 正勝		
居室	西6-409		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kaneko@hc.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>メディアシステムはネットワークの普及によって大きく変わったが、そのあたらしいメディアシステムをどう理解するか、あるいはそのなかでどのようにコンテンツを制作・運用するかという広い意味でのメディアデザインについては、まだ明確な知が形づくられているわけではない。</p> <p>本講義では、映像メディアを事例にとって、ひとつのメディアシステムのなかで知がどのように形成され、次の時代に引き継がれようとしているかを検討することによって、より広範なメディアデザインについての知の獲得を目的とする。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
とくになし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
電気通信学部人間コミュニケーション学科専門科目「メディアリテラシーA」「メディア文化論」「映像論」

<b>【教科書等】</b>
授業中に資料を配付

【授業内容とその進め方】

内容はおおむね以下の通り。  
講義・文献購読とともに、学生による調査・発表・ディスカッションを重視する。

- 1) イントロダクション
- 2) 問題提起:映像とイメージの概念
- 3) 行為としての映像(ロラン・バルト)1
- 4) 行為としての映像(ロラン・バルト)2
- 5) 行為としての映像(ロラン・バルト)3
- 6) 行為としての映像、まとめ
- 7) 中間課題
- 8) 関係としての映像(ジル・ドゥルーズ)1
- 9) 関係としての映像(ジル・ドゥルーズ)2
- 10) 関係としての映像(ジル・ドゥルーズ)3
- 11) 現代における映像(行為、関係、ネットワーク)
- 12) まとめ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

講義・ディスカッション等に参加し、課題を提出することが最低限の義務である。  
前半課題は口頭発表、後半課題はレポートで、それぞれ以下の点をチェックする。

- 1) 講義を理解しているか
  - 2) 講義の論点について、自分なりの事例を探ることができるか。
  - 3) 事例について、論理的に説明できているか
  - 4) 上記すべてについて、どれだけ魅力的ないし説得的に論述できているか
- 1-3) が期待される達成目標であり、これに4)を加味して評点をつける。

【オフィスアワー：授業相談】

月曜4限

【学生へのメッセージ】

活発なディスカッションを期待します

【その他】

なし